



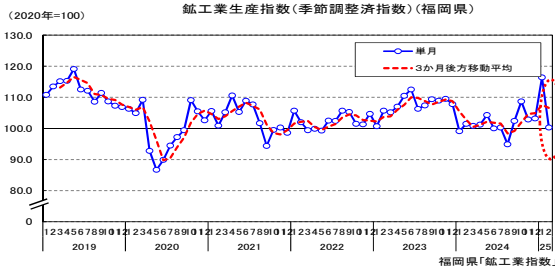
ふくおか経済

令和7年4月号

生産

持ち直しの動きがみられる。

2月の生産指数は、金属製品工業、輸送機械工業などが低下したため、3か月ぶりに前月を下回りました。

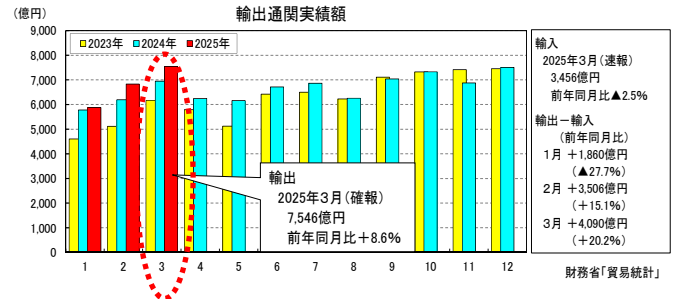


鉱工業生産指数は、2020年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出額は前年同月を上回っている。
輸入額は前年同月を下回っている。

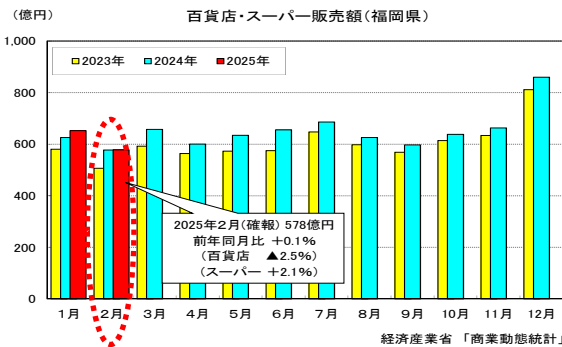
3月の輸出額は前年同月比+8.6%と前年同月を上回りましたが、輸入額は同▲2.5%と前年同月を下回りました。



消費

緩やかに回復している。

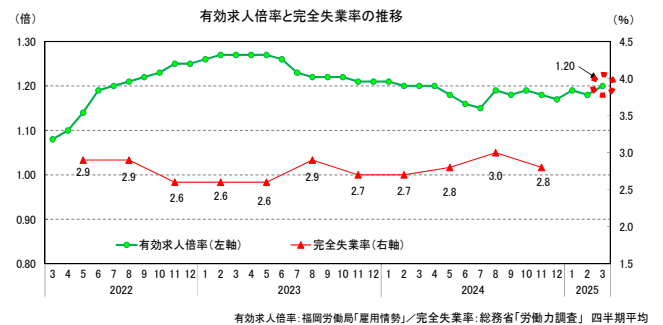
2月の百貨店・スーパー販売額は、41か月連続で前年同月を上回りました。



雇用

雇用情勢は、改善している。

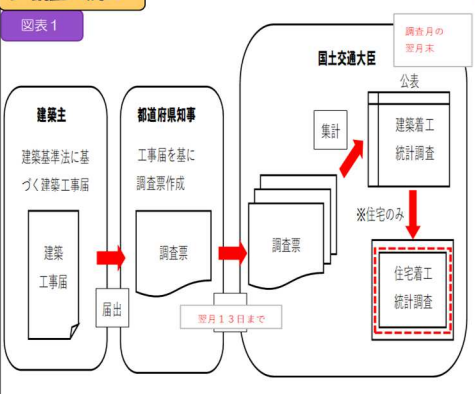
3月の有効求人倍率は1.20倍で、前月を0.02ポイント上回りました。



今月のトピック 住宅着工統計 ～景気動向の先行指標～

- 住宅着工統計は、国土交通省が建築主からの届出を基に新設住宅の着工戸数や着工床面積を集計したものです。都道府県別・地域別・都市圏別に動向を把握できること、調査月の翌月末に公表されるため速報性に優れていることから、景気動向を把握する指標である「住宅投資」の分析に用いられます(図表1)。
- 住宅投資の規模は縮小傾向にあり、近年ではGDPの3~4%を占めるに過ぎません(図表2)。しかし、住宅の建築にあたっては木材や金属製品など多くの材料や製品が使われるほか、完成後には家具や家電が購入されるなど付随的な消費が発生します(図表3)。また、住宅を購入する場合は住宅ローンを利用するため、金融機関のビジネスにもつながります。このため、住宅投資が経済全体に与える影響はそれが直接的に占める割合以上に大きいと言えます。
- 住宅着工の動きはその後の経済全体の動きを予測する目安となることから、住宅着工統計は経済全体の先行きや将来の動向を予測するための重要な指標の1つとされています。

1 調査の流れ



2 住宅投資及びGDP比(実質)の推移



3 住宅取得に伴う耐久消費財等への支出

